

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年6月20日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

子ども、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！
ほいく誌購読の
輪を広げよう！
仲間を増やそう！

関東甲信越の取り組みを紹介します！ part1

毎月の運営委員会で議題にしています。県の理解を得たうえで、認定資格研修の会場で、毎年チラシの配布を行っています。新一年生全世帯に配布している学童保育も。配本にかかわる担当者会議も再開したいです。



群馬県連協の
取り組み！

毎月の役員会、会議で読み合わせをしています。新たな発見や気づきがあったり、感想を言いあうことでテーマを深掘りすることができ、新たな魅力を発見できる楽しみがあります。



栃木県連協の
取り組み！



埼玉県連協の
取り組み！

県連協の方針にほいく誌の普及拡大を掲げるとともに、県の指導員連協ではブロックごとに普及拡大の取り組みを行っており、「みんなのほいく誌」を発行。参加自由のオンラインでの読み合わせ会「ほいく誌カフェ」も開催しています。



茨城県連協の
取り組み！

指導員会で、ほいく誌を使って交流を行っています。「茨城県学童保育のつどい」の会場で、見本誌を活用し購読を呼びかけたところ、見本誌は、ほぼ「売り切れ」になりました。

地域の保護者会に赴き、ほいく誌の重要性を説明して購読部数の維持に努めています。また、認定資格研修や講演会などでも見本誌を配布し「ほいく誌」の認知度を高める活動を実施。未加盟地域への「ほいく誌」のアピール・普及拡大も行っています。



長野県連協の
取り組み！

県連協でも地道に購読の呼びかけをしています。また、研修にほいく誌の活用を位置づけています。



静岡県連協の
取り組み！

日本の学童ほいく5月号 特集 つながり広がる学童保育の 保護者会・父母会

保護者会・父母会は、学童保育に通う子どもの保護者が集ってつくり、学童保育を支える組織です。全国各地で、保護者会・父母会を通じて多くの保護者が、働きながらの子育てのことを話しあい、相談できる関係を築いています。今回の特集ではコロナ禍の経験もふまえて、保護者同士、保護者と指導員がつながることの大切さ、必要性をあらためて確認しあいます。



日本の学童ほいく

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

2024年6月20日

読者の声

兵庫県神戸市●指導員から

公園で遊び、帰る時間になりました。1年生の男の子が、持ってきていた縄跳びを、「結んだことないから、結べない」と言います。すると、それを聞いた5年生の女の子が、「教えるから見て」と言って、ていねいに結び方を教えてくれました。そのていねいさに、「私も見習わないといけないな」と気づかされました。

「明日から結べるね」と1年生の男の子に誇らしげに言う女の子。めんどろ見のよさに、たくましさを感じて、とてもうれしかったです。子どもの成長を感じられてよかったです。

『日本の学童ほいく』2024年5月号「読者のひろば」より

石川県金沢市●保護者から

2024年3月号に掲載されていた「子どもの『新しい生活』を支える——指導員からのアドバイス」を読みました。

私の双子の子どもたちが小学校に入学して、あっという間に1年間が経過しました。この1年でいろいろなことができるようになり、「つぎの1年でまた成長があるのだろうな」と思うと、楽しみでなりません。

双子なので「一人で留守番」という状況にはならないのですが、それでもそれぞれがしっかりしてきたという実感があります。留守番も、苦もなく過ごしてくれ、電話にも出られるようになりました。「これは大丈夫だろうか……」と心配はしつつも、子どもたちを信頼して、「できること」の幅を広げてあげたいと思います。

『日本の学童ほいく』2024年5月号「読者のひろば」より

私は幼い頃から長い活字を読むのは苦手で、大人になったいまもそれは変わっていません。人の長〜い話を聞くのはきらいではないのですが、活字はすぐに飽きてしまいます。29歳から子育てをするようになり、「読み聞かせ」や「読書」が大切だと感じるようになり、ようやく「絵本」を、楽しめるようにはなりました。そんな私が『日本の学童ほいく』を読みはじめたきっかけは、子どもの通う学童保育から購読のすすめがあったことです。

正直なところ読書は苦手ですし、育児書などを見ると、参考になるどころか、わが子との違いにかえて迷うようなこともあり、「子育てに関する本」には少々、抵抗がありました。「試しにちょっと見てみて!」と渡されたので、目をとおすと、あらっ? 読書ぎらいの私でも読みやすいではないですか。一つひとつの話題は、5分、10分かかるくらいで読みきれ内容なので、飽きやすい私にあっていました。子育てと保育、似ているようで違いはありますが、共通しているのは「迷い」があったり「答えがない」ところ。全国の学童保育や子育てに関わる方の、「さまざまな話」感覚で読みすすめることができます。

『日本の学童ほいく』は、決して子育て、保育の指南書ではないと思います。笑いあり、涙あり、迷いあり。そして深い話では、いま各地の学童保育が抱える課題もあり、「気づき」を与えてくれる本だと思っています。私は病院などの待ち時間に読んでいます。バッグのなかに収まるサイズなので、スキマ時間に読むのにぴったりな本です。

私と「ほいく」誌

読者リレー執筆・青森県八戸市から
城北仲良しクラブ・保護者の日景晴子さん